

福祉マインドを育む ～コロナ禍での学び～

県立松戸向陽高等学校校長 あらい 荒井 としろう 俊郎



1 はじめに

本校は、平成23年に松戸矢切高校と松戸秋山高校の統合により開校した。各学年に普通科5～6学級と併せ、県下唯一の福祉教養科1学級が設置されている。福祉教育拠点校としての役割を担うとともに、校名の由来であるひまわりのように、「常にまわりに温かさをもたらすことのできる福祉マインド」の涵養を目指した教育活動に取り組んでいる。

2 福祉マインドの涵養

(1)社会の求め

令和3年5月、厚生労働省第7期介護保険事業計画のまとめが報道された。高齢者人口の増加と介護人材の不足（2040年問題）が社会的課題となる中、国は5本柱による総合的な介護人材確保対策に力を注いでいる。

- 介護人材の処遇改善
- 多様な人材の育成と確保
- 離職防止、定着促進、生産性向上
- 介護職の魅力向上
- 外国人材の受入環境整備

こうした背景のもと、福祉に従事する人材を輩出する養成機関としての存在は一段と重みを増している。福祉教育への小・中学生の理解促進や、若者の福祉事業参加に向けた魅力発信などにも期待を背負うものとなった。

(2)福祉を学ぶ

普通科では1年生全員が『社会福祉基礎』を履修し、社会における福祉の視点や在り方を学んでいる。3年生で福祉コースを選択すれば「介護職員初任者研修」修了資格（福祉教養科では2年生）の取得ができる。

福祉教養科では、3年間の学びで厚生労働省認可の国家資格「介護福祉士」受験資格を取得する。この資格取得のため、3年間でおよそ455時間（60日）に及ぶ施設での介護実習が計画されており、生徒は5分の4以上の出席がなければ受験要件を満たすことができない。実習から得られるものは多く、学びの重点として位置付けられている。



洗髪の校内実習(左)・外国人介護従事者との交流(右)

生徒と教員の真摯な努力により年々実績を高める中、コロナ禍の困難な学習環境下でありながら、令和3年度卒業生の介護福祉士合格率が初めて100%（全国平均72.3%）に到達した。本校にとって大きな自信となり、喜びとなった。

3 学びへの工夫

(1)コロナ禍の壁

コロナ禍での安全を確保するため、多数の施設実習が中止を余儀なくされた。介護福祉士等の養成に関する実習要件緩和とICT活用等の促進に向けた国の通知を受け、学びの保障への工夫と新しい取組の必要性が痛感された。実習に代わる相対的かつ現実的な学習を構築することが大きな課題となった。

また、資格取得のための実習に限らず、本

校が目指す「福祉マインド」涵養の手立てとなる校外ボランティアや地域交流など、諸活動の継続も同様の課題を抱えた。

(2)新しい学びの工夫

校外諸活動については、市社会福祉協議会との関係を生かし、チューリップを育てて福祉施設等へ送る企画が実現された。以前から市社協と関係の深かったJRC（青少年赤十字）部を中心に活動した。

福祉教養科の実習では、オンラインでの双方向同時通信を積極的に取り入れる実践を試みた。施設側の理解と施設利用者の許諾など困難がある中、介護職の後継人材の育成という観点から温かい協力が得られた。



施設と結んだオンラインによる実習（左右とも）

実習内容の一例としては、以下のとおり。

- ①施設職員が行う現場での介護を、配信（受信）した映像と解説で学ぶ。
- ②生徒が施設利用者の担当を受け持ち、施設職員と相談しながらコミュニケーションの取り方を学ぶ。
- ③生徒が担当する利用者の状況に応じた介護計画を作成し、指導を受ける。発展として、生徒が立案した介護計画等に基づいて、リアルタイムに回答しながら施設職員に実際の介護を行っていただき、指導を受けることも試みた。

オンラインを使った実習は、福祉コース設置校がオンラインで見学するなど、拠点校としての役割を果たすという意味でも効果的な取組になった。

また、実習を離れても「ひまわりチャンネル」と名付けた双方向同時通信を施設と継続

している。軽微な体操やクイズなど、施設利用者を楽しませる企画を立て、昼休みを中心に交流している。

施設利用者にとっても、コロナ禍で家族にさえ会えない孤立的な状況が続いたため、本校生徒とのつながりに楽しみを見出す一面があった。高校生の学びに役立っているという社会参加の意識も生まれ、互恵的な相乗効果が起きていると施設の方から伝えられた。

また、新しい学びの在り方を模索する中で、「介護のしごと魅力発信等事業」の活用や、大学、介護事業関係企業や法人など様々な方面から外部講師を招聘し、実習に代わる能動的で専門性の高い学びの実践に努めた。こうした取組は複数回にわたり報道等でも取り上げられ、生徒にとっての励みにもなった。



コミュニティーコーピングによる実習（左右とも）

4 おわりに

コロナ禍の逆境にある中で生まれた挑戦が学びの方向性や視野を押し広げ、新しい可能性に気付かせてくれた。加えて、報道や顕彰、国家試験全員合格といった良好な結果も生徒と教員に届けられた。

今後はさらに様々な機関との連携を通じて、高い専門性を土台とした「福祉マインド」を育み、地域に人材を還元できるよう拠点校としての役割を推進する。加えて、本校の魅力を発信しながら、小・中学校のキャリア教育を、福祉の立場から支援していくことも新たな役割となるものと考えている。